

4 明治8年11月20日 菊池長閑

第三号十一月廿日

第三号来翰已来次号未た不達如何凌居候哉此頃柳田周二十月登  
身ニ階ハ十月六日ハ課業之趣為知有之候得共貴様ハ未た其報  
知無之床敷存候不馴之内は何欵不都合も可有之と察居候英公子  
ニハ御目通致候哉近頃公子之評判不宜乍恐御案事申上居候此地  
家内親屬共無異此地最早雪降四十六度位ニ相成候当年ハ秋ハ好  
晴甚稀ニテ冬ニ入に春とも可申日和殊更少く既ニ二日と続かず  
例年よりハ寒さも早く覚居候当節其地之氣候如何なるものや東  
京も朝鮮事件ハ嶋津光久(ト)板垣之辭職等ニ付不穩欵之様と相聞得  
候得共東奥之地例之推察説欵もしれず先於当県只靜謐ニ候地租  
改正も是非来三月迄ニ調済にして彼之百分三を取究然後当年之  
租税取立と之噂ニ候然し布告ニ成たるニあらざれハ未た安心無  
之候家内之写真不出来勝ニ候へ共那珂まで届置候幸便次第送與  
候事と存候貴様之写真も序ニ遣候様存候先安否承度如斯ニ候以  
上

武夫殿

(封筒表)

「亞米利加ホストン府セントル街六番地

ホストンハイラント

菊池 武夫 殿

要書報平安

(封筒裏)

「日本陸中国岩手県下

第一大区五小区外加賀野

八十六番地

菊池 長 閑

明八

十一月廿日発

長閑